

「サッカースタジアム建設予定地における発掘調査報告会」

1 歴史的環境

(1) 近世

- ・広島城築城開始（天正17年（1589））以降、古絵図を含む歴史資料から、東方に天守閣を見る当該地は毛利氏・福島氏・浅野氏に係る武家屋敷地であったと考えられている。

(2) 近代

- ・廃藩置県（明治4年（1871））以降、城郭一帯に陸軍施設が置かれる。
- ・明治21年（1888年）に、明治4年以来の鎮台が師団（広島：第五師団）に改編され、当該区域に輜重兵第五大隊が入る。
- ・昭和20年（1945）8月6日、原爆が投下される。
- ・原爆投下時には、広島城本丸跡に中国軍管区司令部が置かれ、当該地には輜重兵補充隊が駐屯していた。

戦後、当該地には応急住宅が建設され、その後、昭和50年代に中央公園としての整備が完了した。

2 遺構・遺物について

現在、近代面の調査を行っており、個々の遺構のみからは判断が難しいが、陸軍関係資料等との突合せなどにより、検出された各遺構は次のものと推定される。

遺構：兵舎、倉庫（被服庫等）、厩舎、炊事場、厠など（別紙の遺構配置図参照）

また、出土した遺物は次のとおりである。

遺物：陶磁器、ガラス製品、瓦、馬具（蹄鉄・鐙）など

※被爆を想起させる遺物は出土していない。

3 近世層（下層）の確認について（A区北端：右図に示すとおり）

全体の遺構状況及び調査作業量を確認するために、A区北端部で近世層の調査を行っている。

武家屋敷という性格からか遺構の密度は低く、また、陸軍施設の建設に伴ってか遺物の出土量も少なく、遺構の破壊も一部で受けている。成果については、今後の調査を待つ必要がある。

4 現在までのまとめ

陸軍施設の遺構については、戦後、当該地の利用にあたって破損・改変しており、遺存状況は良くない。

しかしながら、戦前の広島の姿の一端を知ってもらえるよう、遺構の一部を切り取り、保存・活用する方向で検討を進めていくこととしている。

また、これまでの発掘調査と同様に、適宜調査報告会を開催することにしており、今後の現地調査、整理作業の進展に伴い、近世面も含め、本日よりも多くの情報を報告できるものと考えている。



現地航空写真（南より）



調査区位置図